

## 平成28年度 学校事務(事務長)研修会

- 1 研修目標 私学事務管理職の意識等の向上を目指して
- 2 日 時 平成28年7月14日(木)～15日(金)
- 3 会 場 「ホテルコンコルド浜松」浜松市中区元城町 109-18
- 4 参加人員 県内私立学校事務長等 34名

7月14日(研修一日目)

### ◎ 講演「学校運営におけるICTの活用」

講師 学校法人聖マリア学園聖光学院中学校・高等学校理事長・校長 工藤誠一氏

2014年11月に学校校舎の全面改築により、新たな校舎が竣工した折に無線LANを整備し、ICT(Information and Communication Technology:インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー:コンピューターやインターネット技術の総称で、経済分野で使用されるITに対して教育分野を含む公共事業分野で使用されるものがITC)の環境を整えたとのことである。2015年からはオンライン英会話の取り入れ、2016年には全教員にクロームブック(Googleが開発ノートパソコン)を配備して、授業だけでなく、諸連絡、職員会議などでも活用しているとのこと。

#### (講演概要)

- ・校舎の改築に合わせICT導入のためのWi-Fiを校舎全体に張り巡らせることができた。
- ・日本教育の近代化は明治維新とともに行われ、日本の国力を強くすることができた。一方東南アジアの国々は植民地から解放された後に行われ、このため、日本では大学の授業は日本語で行われていたが、近代化が遅れた東南アジアの国々では大学の授業は『英語』で行われた。このため、トップ層で見た場合、英語力は日本より、東南アジアの方が勝っている。(中間層ではもちろん日本の方が学力が勝るが、世界で競うときにはトップ層の争いになるが、英語力で劣る。)
- ・東南アジアの若者からすると、アメリカの大学の滑り止めに東大を受験するという時代が変わりつつある。
- ・聖光学院より後にできた渋谷教育学園幕張中学校・高等学校は東大合格者が聖光学院を抜いて76名であるが、来年は150人に達するのではないかとされている。この実績をけん引しているのは『帰国生』である。今首都圏では帰国子女バブルである。
- ・神奈川県で元気な学校として「洗足学園」があるが、そこも『帰国生』で一クラス編成している。
- ・外国語教員とICTは生徒募集に重要な要因である。
- ・女子高では学校でどの程度のスキルをつけてくれるかを保護者がシビアに期待する、男子校では伝統(卒業生のネットワーク)を求める特徴にある。
- ・このような状況の中で我々私学はどのようにしていくか考えなければならない。日本が世界のGDPに占める割合は年々減少していく傾向の中で、子供たちがどのように生きていくか考えなければならない。国際競争力が必要な時代にどのように教育していくか。
- ・聖光学院でも帰国生の入試を取り入れているが、225人のうち1割の生徒が中学の1年の時点で英検準一級、その子たちは英語がペラペラである。しかし、英語を学校でしっかりやらないと学力は落ちてしまう。親御さんにしてみれば、海外で英語力をつけて、帰国してせっかく日本の有名校という所に行かせて英語力が落ちてしまったのでは困るということになり、英語力の落ちない、英語教育に積極的に取り組んでいる渋谷教育学園などを選ぶことになる。
- ・ネイティブの先生がいるからとوراやましがられるが、すべての先生が「Listen」の資格を持っている人ばかりではない。
- ・このようなことから英語力を高めるためにオンライン英会話を取り入れることとした。中学二年生225名全員、中三、高1、高2の希望者250名の全体約500名の生徒が週4回、学校で1日20分、家で1時間マンツーマンで話し、それぞれのグレードに合わせ学習する。保護者には「高校二年生で、英語によるプレゼンができますよ」と説明している。
- ・学校のIT環境は『ガラパゴス』と言える状況ではないか、補助金等によりパソコン整備ができて、陳腐化しランニングコスト、バージョンアップに経費が掛かるが、補助金も出ない。学校ではランニングコストにお金をかけても実りのあるものにならないという風潮がある。
- ・グローバル社会の中で活躍する生徒を育てていかなければならないため、オンライン英会話をやらせようということであった。外国に4年5年いた1割の帰国生は抜群の英語力を身につけてくる。それ

に比べ 200 人以上のそれ以外の生徒との英語力の格差は「かわいそう」である。一日何時間も英語の勉強をしても勝てない状況にある。

- 英語の先生はというと、本校教員もすべてが帰国生に対応できるわけではなく、意地悪な帰国生(中学生)の早口の英語に教師の方がやり込められることがあり、教員が病気になる心配になるときもある。
- このようなことから、ICTによる教育の必要性を強く認識した。中学生二年生全員にクロームブックを持たせた、Wi-Fi の環境がないと使えないが、機器の代金は 38,000 円ほど、アイパッドにするかクロームブックにするか最後の最後まで迷った。キーボードがついていることが、最終的な決定の要因となった。秋には中学三年生全体に持たせ、来年には中学一年生全員に持たせたい。
- アメリカ(ロサンゼルス)の公立高校に見学に行ったが、公立の高校では生徒全員にパソコンを持たせていなかったが、私学の高校では全員に持たせていた。
- 『グローバルスタンダード』に我々がついていけるかが課題である。パソコン立ち上げ画面は「ヤフー」になっていないか、特に 45 歳以上の日本人は「ヤフー」の方が安心感がある。それは左側に天気・交通・ニュースなどの表示があるから「グーグル」より「ヤフー」に安心感を感じるのは日本人。領域を超えたものをつなぎ合わせることを求められている時代であり、立ち上げの画面は「グーグル」に変えるべきである。
- 保護者にアカウントを配り、保護者のアカウントの頭に P(Parents)をつけた、保護者とは約束事があり、P の付いたアドレスで送られてきたものは親御さんが署名捺印したものと同一である。このため、クラブ活動参加同意書、補習の申し込みなど親御さんが納得しているものとして扱いますよとしている。
- 経費節約だとか効率化ではなく、親に配ったものがしっかり家庭に届かないことの解消を図る目的が大きい。9 月からは出欠の連絡もこのアドレスでやることとしている。本校では 7:40~8:10 の間に学校へ連絡することとしているが、通勤途中など電話をかけられない場合が想定されるが、これにより解決も図れるのではないか。
- グーグルのシステムにより中学二年生全員(現時点で)のアンケート・自動集計が可能となる。(コメントも集計される)こちら(学校)ではだれがどれを選択したかわかる。⇒非常に便利で病み付きになる。
- 聖光学院では当初オンライン英会話から始めたが、「Google for Education」の中で何ができるかということ活用が広がっている。
- 我々日本人は完璧なものを求めていくことが多いが、何かまずければその都度修正していけばよいという発想の方がこれからは大事ではないか。
- 本格的に ICT が始まったのは本年 4 月であり、まだ始まったばかりである。しかし急速に進んでいる。高 3 の親は中学一年の親に比べ年齢的にも高いため、苦勞しているところがある。学校に問い合わせが多く、学校事務局は「お客様相談室」の状態になっている。話を聞きながらどれぐらいのレベルかなと推測するが、最後には『お子様にやってもらってください』ということになる。生徒、親、そして教職員を巻き込んで取り組んでおり、完璧でなくてもやってみる、チャレンジしてみる、そういう姿勢が学校に求められる時代になったのではないかと痛感している。
- 神奈川県私学の集まりでも言いますが、私学は独自の建学精神を持っているが、ネットワークを組まないやっつけいけない時代である。私学は個として独立しているが、ネットワークを組んでやっつけようというのが合言葉ではないか。

(全体記録 静岡県富士見中学高等学校 事務長 前島清彦)